

謹賀新年

今年も よろしく
お願いします。

泉北教育

NO.1950 2014.1.9.
発行 泉北教職員組合
〒594-0071 和泉市府中町6-12-2
0725-41-1953 Fax0725-44-6570
E-mail senboku@gf6.so-net.ne.jp

数字に追われて、子どもの姿を見失っていませんか？ 子ども理解と学習指導を結びつける教育実践を探る

冬の泉北教研 武庫川女子大学大学院教授 田中 孝彦 氏



こうした声を、ここ数ヶ月、私は、何人もの教師から聴いている。今、日本の教師たちは、「教育目標を

た教育目標を記すように」と言われて戻された。

「教育計画の提出を求められて、社会と子どもの不安定な姿を見つめ直さなければ、教師の仕事が続けられないのではないかと感じていたの、子どもに耳を傾け、一人ひとりの子どもについての全体的な理解を深め、学習指導の質を問い直すことを、教育計画の重点にしたい。」という趣旨のことを書いて出したら、『これでは教育計画になっていない。数値化した教育目標を記すように』

学校教育を形式化・空洞化させる 大きな要因とは・・・

2月1日に行われる泉北教研。今回は講師に武庫川女子大学大学院教授の田中孝彦氏を迎えます。教育科学研究会（教科研）の委員長でもある田中氏に、「子ども理解と学習指導を結びつける教育実践を探る」をテーマに講演していただきます。

以下は、「今、子どもの生きている世界とどう向き合うか」2007年3月教育科学研究会3月集会の発題レジュメより抜粋しました。田中孝彦氏の講演に是非ご参加ください。



冬の泉北教研

日時：2014年2月1日(土)
午後2:00～
(開場1:30 開始2:00)

場所：和泉コミュニティーセンター

書籍販売あります！

数値化して「示せ」という、強い「圧力」の下におかれていると言って間違いない。それが、「いじめ隠蔽」問題に現れたように、教師が子どもたちを支える教育活動の計画と目標を自分の頭で描くという、人間教育が成立するための不可欠な営みを蒸発させ、学校教育を形式化・空洞化させる大きな要因になっている。

教育活動の計画・目標を描くとは

創造的で複雑な精神作業

たとえば、小学校三年生になってもひらがなの読み書きがおぼつかない子どもを思い浮かべてみよう。その子は、おそらく、ひらがなの問題だけでなく、そこから発生する様々な生活上の不便・不安、周囲からネガティブな評価を受け続けてきたことによる精神的な「傷」を抱えて生きているであろう。教師が、その子を支えようとすれば、ひらがなの問題への対処だけでは不十分であろう。そうしたやり方だけでは、その子の「傷」をかえって深くしてしまうことさえ起こるかもしれない。

人間教育の「再生」の希望

「競争」「自己責任」が強調されている今の日本の社会では、何かの理由である時期にある「能力」を獲得し損ねると、それがそれだけにとどまらず、社会に対する緊張感や自己に対する否定的な感覚につながってしまうことが多い。したがって、今、教師たちが、改めて、生存・成長の当事者である子どもの生活史に

ついての全体的な理解を深め、子どもの生存・成長を支える全体的な援助・教育活動を構想し、そのなかで個々の教育目標を設定し直す必要があると考えるのは、必然的であり重要である。教師たちのそうした精神的作業の広がりや深まりのなかこそ、人間教育の「再生」の希望もあるといえるべきであろう。

必要なのは、その子の不便・不安、「傷」に思いをめぐらし、その子が安心して生活感情を表現し、他者と交流し、傷ついた「自己」を回復していく過程を支えるような、全体的な援助・教育の構想であり、それを粘り強く実行に移すことである。ひらがなの教育・訓練も、そうした全体的な構想的有機的な一部分として、絶えずその質を点検し直しながら進めていくことが重要である。そもそも、教師が、子どもと出会って、教育活動の計画を描き、教育目標を描くということは、こうした創造的で複雑な精神作業である。